

# 農作物技術情報 第8号 畑作物

発行日 平成29年 10月 26日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 大豆 子実の水分は十分に低下していても、茎水分がなかなか低下しない莢先熟の状況が見られています。子実水分・茎水分の低下を見極め、速やかに収穫を行いましょう。
- ◆ 小麦 土壌処理剤を散布していない圃場は、小麦の生育や雑草の発生状況に応じて土壌処理剤を選択し、必ず散布しましょう。また、圃場条件が整ってから麦踏みを行い、凍上害や倒伏を回避しましょう。越冬後の融雪対策のため排水路の点検を行い、整備しておきましょう。

## 大豆

開花期以降、低温で日照不足のため、登熟は緩慢となりました。9月は日照時間がやや多くなりましたが、10月に入ってから、再び日照不足の傾向となり、台風や大雨によって圃場がなかなか乾かないところや、徒長して倒伏している圃場も見られます。成熟期を迎え、今後、収穫作業に入りますが、子実水分だけが低下し、茎水分が低下しない莢先熟の状況が見られる圃場もありますので、収穫の判断は難しくなりそうです。大豆は刈遅れるほど裂莢によるロスだけでなく、紫斑粒や腐敗粒等の被害粒の発生が多くなります。茎水分や子実水分を確認のうえ、適期刈取を目指しましょう。

### 1 収穫前の抜き取り

青立ち株や大型雑草などを収穫前までに圃場から撤去しましょう。青立ち株や大型雑草等は汚損粒の原因となるだけでなく、コンバインのカッター等で切断されずリール周辺で豆に接触して裂莢を増加させることがあります。また、オペレーター等が刈取りに集中できず、大幅に作業効率が低下している場合もあります。

### 2 適期収穫

成熟期に達した大豆は速やかに収穫を行いましょう。晴天等が続くと裂莢が急激に進むほか、子実水分が低下しすぎると乾燥調製時などに豆が割れやすくなります。また、収穫が遅れると紫斑粒やしわ粒、腐敗粒の発生も増加します。

## 小麦

水稻の収穫作業が遅れ、圃場も乾かなかったことから、小麦の播種は遅れたところが多くなっています。播種適期は過ぎていきますので、これから播種を行う場合は種子量を増やし、年内にできるだけ茎数を確保できるようにします。播種晩限から1週間遅れるごとに10%播種量を増やし、目標株立数を確保できるよう努めましょう（農作物技術情報第7号参照）。

### 1 雑草防除

小麦4葉期まで散布可能な土壌処理剤もあります。土壌処理剤をまだ散布していない圃場では、除草剤の登録内容を確認し、小麦の生育や雑草の発生状況に応じて土壌処理剤を必ず散布しましょう。散布できなかった場合には、雑草が小さいうちに茎葉処理剤を散布すると効果的です。

### 2 麦踏み

表1にあるように、麦踏みは茎数の増加や倒伏防止などに大きな効果があります。積雪が少なく土壌の凍結が強い地帯や土壌が軽い火山灰土などでは特に有効です。積極的に麦踏みを行いましょう。

ただし、圃場が乾いていることが実施の前提条件となるので、排水不良の圃場や土壌水分が高い場合、あるいは碎土率が極端に低い場合は実施を避けます。

#### ※麦踏みの実施方法・実施時期

- ・鎮圧ローラーやタイヤなどを用います。
- ・実施時期は、雪解け後の**茎立ち前**まで。
- ・回数は、越冬前・越冬後それぞれ 1 回以上を目標にします。暖冬年や播種が早い場合は回数を増やします。

表 1 麦踏みの主な効果

項目	内容・理由
茎数の増加	主稈や早期分げつを一時的に抑制する芯止めの効果などによる。
倒伏の防止	節間伸長の抑制や草丈の短縮、稈基重の増大によるもの。
凍上害の防止	霜柱の発生による根の浮き上がり等による枯れ上りを防ぐ。
耐寒性と耐干性の強化	麦踏みにより葉が傷つけられ、それ以降細胞溶液の濃度が高まる。
生育の均一化	主稈や早期分げつの生育が抑制される反面、弱小分げつの生育が促進され、全体として生育が揃う。

### 3 雪腐病の防除

県北部や高標高地帯など、根雪期間が長い地域では防除を行いましょ。この場合、例年発生している雪腐病の種類に応じて薬剤を選定します。

(1) 県内で発生が特に多い雪腐褐色小粒菌核病にはトップジン M 粉剤 DL、トップジン M 水和剤、バシタック水和剤 75、オキシンドー水和剤 80、キノンドー水和剤 80 などが有効です。

雪腐病の防除時期は根雪直前が最も有効とされていますが、根雪になる時期は、年によって変動が大きいので、散布時期を失しないように注意します。これらの剤については散布後 2 週間以内に根雪にならなかった場合、あるいは散布後～根雪前までに 30mm 以上の雨が降った場合は再散布が必要になります。

(2) 根雪前 4 週間程度から散布できるフロンサイド SC は残効も長く、上記薬剤よりも散布時期が限定されないため、使用しやすい薬剤と思われます。ただし、散布後～根雪開始前の積算降水量が 120mm 以上、あるいは日最大降水量 65mm を超える場合は再散布が必要になります。

(3) 連作圃場ほど発生が多い傾向が見られます。このため、耕種的防除として、常発地では輪作を取り入れる、融雪期には消雪を早め排水をはかる、融雪期追肥を行う、などの対策を行いましょ。

### 4 排水路の点検

台風第 21 号の影響もありますので、明渠や排水路の点検整備を行って、滞水による湿害等を防ぎましょ。

次号は11月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は  
秋の農作業安全月間です**

**いつもの慣れが落とし穴  
急がずあせらず 農作業安全**

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。